神経膠腫の化学療法（1泊2日）を受ける患者さんへ

【患者さん用クリニカルパス】

ID　　患者氏名　　様

	入院当日　化学療法日 月　日		退院日 月　日
目標	治療の経過が分かる	予定どおりに治療が終了する 症状出現時は適切な対処が受けられる	退院指導の内容が分かる
説明・指導	入院・治療について説明します。 予測される副作用および予防法・出現時の対処方法について説明があります。	点滴中、針の入っているところが痛くなったり、腫れたり、重苦しくなったら、すぐに教えて下さい。 ふらつき・目まい等があるときは必ず看護師を呼んでください。 副作用症状がひどいときは、遠慮せずに話してください。 	医師の診察後退院となります。（午前中） 退院指導を行います。（生活指導や次回外来再診日の連絡） 次回から外来化学療法を行う場合は、外来化学療法室のご案内・説明を行います。
治療 処置 点滴		点滴の針を入れ準備します。 採血などで治療ができることを確認してから点滴を始めます。 **抗癌剤の主な副作用** 発症時期による症状と対処方法について 【点滴開始から1週間】 投与時過敏症状　投与中あるいは投与数時間後にかゆみ、息が苦しい、発熱、汗が出るなど様々な症状が出た場合、すぐに教えてください。 はき気・嘔吐・食欲不振などの消化器症状　吐き気止めのお薬を使用します。 関節・筋肉痛　漢方や痛み止めの内服を使用することがあります。 手指のしびれ　手足のピリピリとしたしびれ、感覚が鈍くなるなどの症状が起こることがあります。 白血球減少、好中球減少　G-CSF製剤（白血球を増やす薬）を注射をすることがあります。 【数週間から数か月】 貧血　めまい、立ちくらみなどの症状があります。立ち上がる際には転倒に注意しましょう。 脱毛　治療前に必要に応じて髪を短くしたり、かつらやバンダナ、帽子などを使用しましょう。 出血　鼻や歯肉から出血がみられたり、痰に血が混じることがあります。 【その他の副作用】 動悸・息切れ　下痢　口内炎　疲れやすい　強い腹痛　味覚異常　むくみ　血管痛 	
内服	現在飲んでいる内服薬の確認をします。 内服薬は基本的に継続内服とします。 		必要に応じて、吐き気止めや便秘薬の処方を行います。 その他、希望がある際は、お申し出下さい。 
検査	次の検査をすることがあります。 血液検査 胸のレントゲン 心電図検査 	体温と血圧を測ります。 	外来で採血をして、骨髄抑制（白血球減少、貧血、血小板減少）の有無を確認します。 白血球減少が認められた場合は、次回の化学療法を延期し、 G-CSF製剤（白血球を増加させる薬）を注射します。 うがい、手洗いをし、マスクをつけ感染予防をしてください。
食事	基礎疾患（糖尿病・高血圧）に応じて、治療食をお出しすることもあります。　食欲に応じて食事変更ができますので、医師・看護師にお話下さい。		化学療法によって、食事の制限はありません。 通常通りに摂取して下さい。
生活・行動	特に行動制限はありません。		特に行動制限はありません。
清潔	点滴治療中以外は、シャワー浴ができます。 点滴の針が濡れないように出来ますのでシャワー浴のときはお知らせください。 		ご自宅でも　入浴、またはシャワー浴ができます。
その他	抗癌剤点滴開始初期（特に１０分以内）に発疹や顔が赤くなってほてるなどのアレルギー症状が現れることがあります。 ほとんどは一時的なものでおさまりますが、症状が出現した場合は申し出て下さい。		退院後、外来で採血検査を行います。必ず受診しましょう。 38.5℃以上の発熱があった場合には、受診するようにしましょう。 また、その他にも気になることがございましたら、お電話下さい。

注）予定は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わることがあります。

岩手医科大学附属病院

脳神経外科